

## 論文審査及び最終試験結果報告書

課程博士	地域社会研究科 地域社会専攻 地域政策研究講座		
学籍番号	13GR108	氏名	吉崎聡子
審査委員	主査	平岡恭一	
	副査	大坪正一	
	副査	小岩直人	

### (論文題目)

自律的動機づけに関する有機的統合理論と基本的心理的欲求理論の統合的検証

### (論文審査の要旨)

本論文は、心理学における動機づけの有力な理論である自己決定理論について、その下位理論である有機的統合理論から見た動機づけの諸段階と、基本的心理的欲求の充足との関係を実証的に検証したものである。具体的な目的は次の三つであった。1) これまで、基本的欲求が同時に充足されると、well-being が促進されることは多くの研究で示されてきたが、動機づけとの関連性についてはあまり調べられていなかった。そこで本論文ではまず、大学生においてこの点の検証を行った。2) well-being の一つとみられる学校適応感が基本的心理的欲求の充足によって促進されるかどうかを、地域の小中学生において確認した。3) 最近この問題に関連して、3つの心理的欲求の充足の程度がバランスがとれている場合に well-being が促進されるという仮説が提唱されており、これは、動機づけとの関連においても重要であると考えられる。そこで欲求充足のバランスと動機づけおよび学校適応感の関連性を検証した。

結果として、1) 基本的欲求の充足によって有機的統合理論から見た動機づけの自律性が促進されるとともに、各欲求は動機づけの異なった面に影響を与えることが明らかとなった。2) 欲求充足と学校適応感との関連性は、動機づけの場合に比べ幾分強めであった。また、学級による差が見られた。3) 欲求充足のバランスの要因が動機づけと学校適応感に及ぼす影響はごく弱いものであった。

このように、本研究は、欲求充足と動機づけの自律性との関連性に関して新たな事実を明らかにしており、さらに欲求充足のバランスが及ぼす影響について本邦における先駆的な取り組みを行った。本研究は、現代の動機づけ研究にその独自の視点から貢献するものと言えよう。審査の議論の過程で、研究の枠組みが必ずしも明確になっていない点や、一部のデータにおいて、精度が若干低いものがあることが指摘された。今後の課題とすべきであろう。

### (最終試験結果の要旨)

本研究は、重要でありながら検証があまり進んでいなかった基本的心理的欲求の充足と動機づけの関連について、動機づけとして、有機的統合理論の視点を加えることによって新たな事実を見いだした。また欲求充足のバランスに関しても我が国では初めてと思われる要因の分析に先鞭を付けた。本研究は自律的動機づけの促進要因の解明に貢献すると考えられる点で評価に値する。以上のことから本論文を、審査委員全員で博士論文としてふさわしいものであると判断した。